

令和6年度

学校運営に関する計画



大阪市立中本小学校

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

保護者、地域の方々は本校の教育活動に対して協力的である。その中で本校には生活面や学習面の課題をもつ児童が各学年に在籍している。緊急の転出入があるなど、生活・学力実態は多様であり、個別対応が必要である。そのような現状を踏まえ、子どもたちが安全、安心な状況の中で未来を切り拓く学力をつけることが必要である。

児童の現状を見ていくと、ほとんどの学年の人数が50名以下であり、児童の集団が固定化される。いじめがない、安全・安心が保たれるよりよい集団作りのためにはお互いの違いに気づき、認め合い、正しい判断力を身につけられる教育内容が必要である。児童の自尊感情を高め、基礎学力の定着を図る取り組みを進めなければならない。

生活指導面では月1回の生活指導連絡会の中で児童・生徒の状況についての情報を把握し、保護者との連携も密に行っているため、問題行動にすばやく対応できており、不登校児童の在籍比率も減少してきた。今後も関係諸機関と連携しながら、登校できる環境づくりに努めていく。

学力向上の取組においては、令和5年度の大阪市学力経年調査においてすべての教科で、大阪市平均を上回ることができこれまで成果が表れている。今後は、この現状を維持し学力向上に向けたより丁寧な取組を行うことが必要である。特に、国語科・算数科では、学習する単元のめあてや目的に応じて学習を進めていく。算数科では放課後指導等を行い、個別指導に力を入れ、国語科では基礎的な理解が不十分な状況も多く見られ、今後も個別指導に力を入れなくてはならない。

毎年の全国学力・学習調査の児童質問紙結果において、宿題や塾での学習等与えられた課題には取り組むが、自ら復習や予習には取り組まない児童が多いことが本校の実態であり、学力向上のためには自学自習の力をつけることが必要である。そこで、長期休暇中の家庭学習に取り組み、自学自習の力の育成に取り組む。

体力の向上の取組として、本年度も引き続き研究教科を体育科とし、児童の体力向上を目指して学習内容を充実させていく。児童が楽しく取り組むことができるよう授業内容を工夫していく。また、学期ごとに運動週間を設け、児童が屋外で体を動かす取り組みを進めていく。毎年取り組んでいる体力向上カード「なかもと☆キッズ」を全学年児童に配付し、児童に自分自身の体力を意識させていく。必要に応じて内容等見直し子どもたちの現状に合ったものにし、子どもたちが自分の体力向上のめあてを考え、実践できる取組としていく。

教育環境の充実においては、昨年度ICTを活用した研修会を多くもつことができた。研修を通して教職員のスキルも向上している。児童の学習の充実につなげていきたい。また、教員の働き方に対する意識の向上を図るとともに、各部会を減らすなど効率的な運営をさらに目指していく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 学校保護者アンケート「学校は、友だちとのちがいを認め合い、いじめを見逃さないよう指導している。」の肯定的な回答を85%以上に維持する。
- 学校保護者アンケート「学校は、学校のきまりや社会のルールを守るよう指導している。」の肯定的な回答を90%以上に維持する
- 学校保護者アンケート「学校は、健康や身の安全を守るための指導をしている。」の肯定的な回答を90%以上に維持する

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 学校児童アンケート「学校でみんなと勉強するのは楽しい。」「学校での学習がよくわかる。」の肯定的な回答をそれぞれ80%以上に維持する。
- 学校児童アンケート「自分の体の健康について知っている（関心をもっている）。」の肯定的な回答を80%以上に維持する。
- 学校児童アンケート「国語や算数で、コース別に分かれて学習したり、複数の先生に教えてもらったりすることで、学習がよくわかるようになった。（授業中、複数の先生に教えてもらうことで、学習がよくわかるようになった）」の肯定的な回答を85%以上に維持する。
- 学校児童アンケート「読書活動を楽しむことができている。」の肯定的な回答の割合を毎年上げる。
- 学校児童アンケート「からだを動かすことが楽しい。」の肯定的な回答を85%以上に維持する。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 学校児童アンケート「日々の授業の中で、学習者用端末を毎日活用して学習している」の項目について、肯定的な回答を75%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を**85%以上**にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を**前年度より減少**させる。
- 学校保護者アンケート「学校は、友だちとのちがいを認め合い、いじめを見逃さないよう指導している。」の肯定的な回答を**85%以上**に維持する
- 学校保護者アンケート「学校は、学校のきまりや社会のルールを守るよう指導している。」の肯定的な回答を**90%以上**に維持する。
- 学校保護者アンケート「学校は、健康や身の安全を守るための指導をしている。」の肯定的な回答を**90%以上**に維持する。

### 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を**50%以上**にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より**0.01ポイント**向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を**70%以上**にする。
- 学校児童アンケート「学校でみんなと勉強するのは楽しい。」「授業（学校の学習）がよくわかる。」の肯定的な回答をそれぞれ**80%以上**に維持する。
- 学校児童アンケート「読書活動を楽しむことができている」の肯定的な回答の割合を**80%以上**に維持する。
- 学校児童アンケート「自分の体の健康について知っている（関心をもっている）。」の肯定的な回答を**80%以上**に維持する。
- 学校児童アンケート「からだを動かすことが楽しい。」の肯定的な回答を**85%以上**に維持する。

### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の**50%以上**にする。
- デジタルドリルを活用した朝学習を**週1回**実施する。
- 年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を**75%以上**にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

## 大阪市立中本小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を<b>85%以上</b>にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を<b>前年度より減少</b>させる。</p> <p>○学校保護者アンケート「学校は、友だちとのちがいを認め合い、いじめを見逃さないよう指導している。」の肯定的な回答を<b>85%以上</b>に維持する。</p> <p>○学校保護者アンケート「学校は、学校のきまりや社会のルールを守るよう指導している。」の肯定的な回答を<b>90%以上</b>に維持する。</p> <p>○学校保護者アンケート「学校は、健康や身の安全を守るための指導をしている。」の肯定的な回答を<b>90%以上</b>に維持する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1. 安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>互いの違いを認め合い、いじめを許さない集団・仲間づくりをすすめる。また、いじめを原因とする不登校児童が出ない学校、学級づくりを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>あらゆる教科・領域を通じて、学期に1回以上仲間づくりに関する実践を行う。また、いじめアンケートを活用し、いじめを解決した割合を100%にする。</p>	
<p>取組内容②【1. 安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>関係諸機関と連携しながら、全教職員が主として家庭環境に配慮すべき不登校児童についての理解を深め、児童の思いを大切にしながら、通いたくなる学校、学級づくりを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>月に一回の生活指導報告会において、不登校児童の現状についての共通理解を深める。また、不登校児童の保護者やリアン東さくら等の関係機関との連携を密にし、登校状況の改善を図る。</p>	
<p>取組内容③【2. 豊かな心の育成】</p> <p>人権教育推進体制を確立し、人権教育研修(在日外国人教育・障がいのある人の人権を尊重する教育等)を深め、児童の実態に応じた人権教育を実践していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>人権教育研修会(区・校内で一度ずつ)や実践交流会(区・校内で一度ずつ)へ</p>	

<p>の積極的な参加により研修を深める。また、「人権教育教材集・資料など」を活用しながら、「人権教育年間指導計画」を作成し、児童の人権意識を高める取り組みを各教科、道徳の時間に実施する。</p> <p>年3回の外国人教育部会において、実践報告、情報交換を行い、研修を進める。年3回の特別支援者会議や毎月の生活指導連絡会などで情報共有し、児童理解を深め、日々の実践を見直す中で、障がいのある人の人権を尊重する教育の研修を進め、繰り返し実践していく。</p>	
<p>取組内容④【2. 豊かな心の育成】</p> <p>毎月の生活目標を設定し、年間を通して規範意識を高め、目標を達成するための指導の徹底を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>毎週月曜日の児童朝会において、毎月の生活目標についての指導を年30回以上行い、当月の中頃以降に朝会時に全体での振り返りを行う。また、学級指導も並行して継続し、毎月の目標のふりかえりや、「成長カード」の中で自己評価し、児童の規範意識を高めていくようにする。</p>	
<p>取組内容⑤【1. 安全、安心な教育環境の実現】</p> <p>日常生活における危険を回避するための交通安全指導や災害時に備えた訓練を実施し、自分自身を大切にする心情や、他者の安全を考える心情を育てるための安全教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年2回の交通安全指導を行い、歩行や自転車使用の際の危険について学ぶとともに、防災教育や地域防災訓練、避難訓練を年3回以上行い、児童が積極的に参加して防災意識を高める。</p> <p>また、日常生活における身のまわりの危険性について、児童自らが考える機会をつくり、危険に備えた適切な対応ができるように指導する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

## 大阪府立中本小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した  
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、<b>50%以上</b>にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より<b>0.01ポイント</b>向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を<b>76%以上</b>にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を、<b>70%以上</b>にする。</p> <p>○学校児童アンケート「学校でみんなと勉強するのは楽しい。」「授業(学校の学習)がよくわかる。」の肯定的な回答を、それぞれ<b>80%以上</b>に維持する。</p> <p>○学校児童アンケート「読書活動を楽しむことができる。」の肯定的な回答の割合を、<b>80%以上</b>に維持する。</p> <p>○学校児童アンケート「自分の体の健康について知っている(関心をもっている)。」の肯定的な回答を、<b>80%以上</b>に維持する。</p> <p>○学校児童アンケート「からだを動かすことが楽しい。」の肯定的な回答を、<b>85%以上</b>に維持する。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p>取組内容①【4. 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学校独自の取り組み(ぐんぐんチャレンジ・放課後レベルUPタイム・中本なかよしスタディ)や個別の指導を柔軟に実施し、基礎的基本的な学力の向上を図る。</p> <p>外国語(外国語活動)への意欲を高めるために、指導法を工夫したり、C-NETと連携をとり意欲を高める教材を取り入れたりする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学習形態の工夫や個別指導により、授業(学校の学習)がわかる児童の割合を増やす。</p> <p>学校児童アンケート「ぐんぐんチャレンジや放課後学習に参加することで、漢字を読み書きする力や計算する力が伸びてきている。」「外国語(外国語活動)の学習はよくわかる」の否定的な回答の割合を増やさないようにする。</p>	

<p>取組内容②【４．誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>研究・公開授業の実施により、主体的で対話的な深い学びをつくりだす授業の指導力を高める。</p> <p>校内研修を計画的に実施し、校外研修の成果を共有することで、教育活動の充実を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>授業を通じた研修や SKIP 上での成果の共有により、教育活動の充実を図り、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」のもっとも肯定的な「思う」と回答する児童の割合を４５％以上にする。</p>	
<p>取組内容③【４．誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>毎週木曜日の学校司書による支援や地域の図書ボランティアの方々の活動によって、児童の興味関心を高める。また、年度末には、読んだ冊数の多い児童を表彰することで、意欲を高めるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>毎週水曜日の読書タイムや読書週間(年３回)、東成図書館パンジーお話会(年２回)を行うとともに、毎昼休みの図書委員会による図書館開放、木曜日の学校司書による図書館開放を周知し、児童が進んで読書活動に取り組めるようにする。各自が読書記録をつけて、読書について振り返り、自分なりの目標値として冊数やページ数について知ることができる工夫を継続する。さらに本年度からは、読書週間での全学年の読み聞かせやクラス貸し出しの本を児童が選べる機会をつくるなどして、本への興味を高める。以上の取り組みにより、学校児童アンケート「読書活動を楽しむことができている」の肯定的な回答の割合を８０％以上に維持する。</p>	
<p>取組内容④【５．健やかな体の育成】</p> <p>仲間と力を合わせ、運動の楽しさや喜びを味わう子どもを育てる。</p>	
<p>指標</p> <p>「なかもと☆キッズ(スモールステップ)」や「運動週間(運動の機会を増やす)」の取り組み、体育の指導法の工夫(ゲーム、ボール運動を中心とした授業)により、学校児童アンケート「からだを動かすことが楽しい。」の肯定的な回答を８５％以上に維持する。</p>	
<p>取組内容⑤【５．健やかな体の育成】</p> <p>児童が自分の体や健康について関心をもち、楽しみながら健康な生活を意識できるような取り組みを行う。</p>	
<p>指標</p> <p>保健指導、保健だより、掲示物等を通して、児童が自分の体や健康について楽しく学べるよう工夫したり、学期に一度、生活習慣についてチャレンジカードを実施し、健康な生活習慣を自分で意識できるようにしたりすることで、学校児童アンケート「自分の体の健康について知っている(関心をもっている)」の肯定的な回答を８０％以上に維持する。また、毎月保健だよりを発行し、児童だけではなく、保護者にも啓発を行う。</p>	

<p>取組内容⑥【5. 健やかな体の育成】</p> <p>自己の健康に目を向け、各種の食に関する指導を通して食への意識が高まるように取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>児童への「しょくせいかつ」、保護者への「食育つうしん」を毎月発行し、食育への啓発を図る。毎月の目標を設定し、年間を通して子どもたちの意識を高める。食への意識がより高まるような取り組みとして、「給食マナーウィーク」を学期に1度設定するなど、食に関する指導や各学級における給食指導を行う。以上の取り組みにより、学校児童アンケート「食事の大切さを知っている。」の肯定的な回答を80%にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

## 大阪府立中本小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の<u>50%以上</u>にする。</p> <p>○デジタルドリルを活用した朝学習を<u>週1回</u>実施する。</p> <p>○年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を<u>75%以上</u>にする。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 教職員の活用スキルの向上を目指して、ICTの活用に関する研修会を行う。</p>	
<p>指標 学期に1回以上研修会を行い、研修後活用することができた教職員の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 各部会の開催回数を減らし、校務の効率化を図り、週に1回以上ゆとりの日を設定し励行する。</p>	
<p>指標 年度末に校内調査を行い、前年度と部会の開催回数を比較しその回数を減らす。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	